

◆暮らし自体をエコにしたらこうなった

研修会報告



12月7日、加藤大吾さん(NPO法人・都留環境フォーラム代表理事)をゲストに研修会を開催しました。加藤さんは都留市にある小高い山を

開拓し、自らの手で家を2件と馬小屋兼事務所を建て、畑や田んぼで作物を作り、鶏や羊や馬を飼いながら、自給自足の生活を実践しています。その暮らしの場を舞台に、世界や日本から様々な方へ学びの場を提供しています。最近の活動としては、「イベント(非日常)をやめて、いつもの暮らし(日常)をプログラムにしています」とのこと。その様子をスライドで見せて頂きながらお話を伺いました。

会場となった「山梨県立・桂川ウエルネスパーク」は森と畑が広がる里山のような風景の公園です。研修会のはじめには、自然のエネルギーで自然の恵みをいただき、囲炉裏を囲んでゆるゆるとしたお茶タイムが繰り広げられました。加藤さんが持ってきてくださったお芋や鹿肉、鶏肉を囲炉裏で焼いて食べ、パークの畑でとれたハーブティを頂きながら、参加者の皆さんの活動について情報交換をしました。また、ソーラークッカーやペレットストーブで料理をする様子を見ていただいたり、地元の推進員・岡部さんによる薪ストーブの展示もありました。



いよいよ加藤さんのお話です。農的な暮らしの食生活で大切な3要素は、米・麦・大豆。これを育てればたいの料理が作れて豊かな食生活ができる！おススメの家畜は鶏と羊。羊はヤギに比べてさびしがりで屋で人懐っこいところがあるので逃げない育てやすい。お乳もとれるので乳製品が楽しめ、毛も取れるので利用できる。鶏の卵と羊のお乳と小麦が揃えばほとんどのお菓子が作れるので、美味しい食生活が楽しめます〜♪と満面の笑み。

最近、海外へスタディツアーにも行かれ、フィリピンの山奥、棚田が残る山村で長期滞在をし、農作業体験をしたり、自然を信仰し一体になって生きる精神性にふれ、「地域の伝統文化と高い精神性が、誇りと絆を育む」と確信されたそうです。

参加者からは、ご自身のお子さんの教育についての質問も出て、加藤家の教育哲学についても詳しく伺いました。例えば、人間より強い生き物“クマ”が棲むエリアにテント泊をして、人間の生き物としての弱さや謙虚さを学ぶ旅をしたり、日本を横断する歩き旅をする一方で、リゾート地に滞在する旅行もし、いろいろな価値観や世界感到れる旅から学ぶ機会を作っているそうです。フィリピンにも家族で1ヶ月旅行されたそうで、子どもにはできるだけ多様な経験をさせてあげて、子ども自身が好奇心を持って学べる機会を作りたいとのこと。「世の中には多様な生き方があり、その異なる生き方を認めあうことが、平和な社会作りにつながる」ことを伝えていきたいそうです。

最後に、参加者からの「今までに失敗はしなかったのか？」という質問には、「いっぱい失敗した！話せばきりがなくらい！ただ、僕は失敗したことをあまり気にしない、またやり直せばいいさと思える性質だからここまでやってこられた」と日焼けした顔で笑っておられました。加藤さんの行き方や暮らしぶりに刺激を受け、自分ができることから始めてみようと思えた、有意義なひとときだったと思います。

◆第19回環境リサイクルフェア@甲府市 イベント報告



11月6日、今年で19回目になる環境リサイクルフェアが、甲府市環境センターで開催されセンターも出展しました。再生自転車・家具の抽選販売やおもちゃの修理・リユースコーナーは、そのこと自体が“循環の輪”をまわすいい機会！会場のあちこちで推進員さんの活躍する姿がたくさん見られました。劇団さくらっ子さんの環境紙芝居、ペレットストーブの展示、ソーラークッカーの実演、エコ相談コーナー、雨水タンクや緑のカーテンの紹介と、生活のいろんなアイデアがあふれていました。センターも「エコぬりえ」と「自然に目を向けてみよう！」コーナーを担当。エコぬりえをしながら、「家もライトダウンしたよ」「家も緑のカーテンするよ」と子どもが宣言。リスからみた大きさのどんぐりのぬいぐるみを見て「これなら食べ応えがあるねえ」と驚き。

「観天望気カルタ」をみながら「これ知ってるね」「季節を感じるって大事な一歩だよ」という声も聞かれました。イベントで一日を過ごす中で、日頃はあまり意識しないけれど“大事なこと”を思い出せる良い機会になっていました。



◆キッズフェア まほらの森2016 森からの贈り物@富士川町 イベント報告



秋晴れの心地よい天気の中、11月3日に富士川町ますほ文化ホール庭園にて行われたまほらの森2016に参加しました。家族連れの来場者が多く、近所の子供なかよしグループもちらほら。森のようちえんの保護者の皆さんが手作りした落ち葉プールや、おまつりのシンボルとなる森のジャングルジムなどで遊び、木工の端材や自然物を材料に創造力たっぷりの工作を作り、ロープを使った木登りにチャレンジし、大道芸のお兄さんの妙技に歓声を送り、秋の一日を満喫していました。

フリーマーケットエリアでは、ぬくもりあふれる手芸品や陶芸、リユース・

リサイクルの古着や古道具なども並び、来場者の目を楽しませていました。秋はお祭りやイベントの多い時期ですが、地元でこのような手作り感いっぱいのお祭りが行われているのは、来場者の地域の皆さんにとっても誇らしく嬉しいことだと思います。

開催後のスタッフミーティングで、推進員でもあるエコ富士川の会長、深澤さんより「開催5年目になるが、今年はピクニックシート持参でのんびりする気満々で来られた方が多く、こちらの“とにかくゆるやかに一日ゆっくり滞在してお祭りを楽しんでほしい”という願いも浸透してきたように感じる」という言葉が印象的でした。来年からは、お祭りのお手伝いをしたい！という若年層の声もあるので、地域の子も達と一緒に祭り作りができれば楽しいのでは。という声もあがっていました。まさに地域の祭りの原点ですね。

文：鈴木律子(推進員)



◆『ひとりひとりが、こころ豊かな暮らしを』 推進員・深澤修さんインタビュー

「まほらの森」イベント会場の一角でひととき目立つ宙に浮かぶ大きな地球ボール。その下には樹を囲むように設えられた木のベンチや、木にまつわる絵本が。そこにはインパクトドライバーを振る手際よく準備しながら、お手製のウッドガスストーブでお餅やどんぐりを焼く、推進員の深澤修さん(エコ富士川会長)の姿がありました。焼きたての香ばしいシイの実をご馳走になりながら、深澤さんの活動についてインタビューさせていただきました

／インタビュー・文 鈴木律子(推進員)

——今はどのような活動をされていますか？

5年前に、30年以上勤めた支援学校の仕事を退職し、現在は週二回、学校関係の仕事をしながら週末はこういったイベントに出ています。子供たちと自然の中で遊びたいんだよね。

——主な活動場所はどこですか？

富士川町内、四尾連湖、甲府など。最近は、沖縄まで自転車旅にも行くよ。後ろにウッドガスストーブをくりつけて。辺野古や高江の座り込みしている所にも行って、みんなにウッドガスストーブで食べ物を焼いてふるまったの。とても喜ばれたので、ストーブをプレゼントしてきた。こういう出会いはとても面白いと思う。

——ウッドガスストーブのいいところは？

以前はロケットストーブを作っていたんだけどね、その後ウッドガスストーブの魅力を知って、改良を重ねて現在は“バージョン4！”ガスが燃えて炭素だけ残るとところが素晴らしいね。材料は業務用のトマト缶や赤ちゃんのミルク缶、いろいろな缶が使えるよ。

——空き缶の調達はどうしているんですか？

そりやあもういろんなところに声をかけている。レストランやら病院、保育園やら。この2年半でウッドガスストーブの制作ワークショップをやってくれてどんどん声がかかるもんだから。今までにワークショップで170個以上を制作してきたから、材料もたくさん必要。やはり震災の影響もあって、ガスや石油に頼らない身近な材料で調理ができるウッドガスストーブの需要は高まってきていると感じるよ。ちなみに今日のウッドガスストーブは外側が植木鉢なの。

——遠くから見るとなんだかかわいいので、七輪かと思いました。

そうそう、下に空けた穴をそのまま利用して空気が通るように少し浮かせるのがコツ。

今日は素焼きの無地の鉢だけれど、次は可愛い柄の鉢で作るからもっとかわくなるよ(笑)

——それは楽しみですね(笑)焼いておいしい、おすすめのメニューは何ですか？

それはもう日々研究(笑)何でもおいしいよね。旬のシイタケ、シイの実、鮭もおいしい、トマトもおいしい。

サンマもお餅もおいしく焼ける。こないだ生卵を焼いてみたんだけど、卵焼き？ができた。

——この地域の魅力は何ですか？

自然がいっぱい。山があって、川があって。僕は十代後半くらいから山登りをするようになってね。ここから見える山はほぼ登ったよ。自然にいっぱい触れ合って、その恵みを実感した。今は、自然からいただいたものを生活の豊かさにつなげる活動をしたい。それはみんなの心のゆとりになるし、暮らしをあたたかいよろこびで満たすし、環境問題の解決にもつながるよね。雨水利用とか、富士川町のヒノキを使ったベンチ作りとか、いろいろ取り組んできて、今はストーブやさん。(笑)

——本当にいい環境ですね。今日のお祭りも、運営されている皆さんが笑顔でいっぱい、あたたかく子供たちの遊びを見守っていて、「人」の魅力もたくさん感じました。

日本中どこもそうだけれど、富士川町の山の中にも、過疎が進んだ集落があってね。標高600~800mくらいの、いわゆる「里山」。そこに、ここ12~3年の動きなんだけれど、若者が移住している。それも志の高い若者。一人やってくると、2人、3人と徐々に増えてくる。2年前にね、そこで50年以上ぶりに赤ちゃんが生まれたんだよ。そうしたらもう地元のおばあちゃんたちが喜んじゃって、どんどん世話焼きに行っちゃう。田舎に焦点をあてて移住してくる若者達は、「ほんとうの豊かさ」をわかっているような気がするよ。

——最後に、深澤さんが皆さんに伝えたいことって何でしょうか？

「英雄を求める社会は不幸だ」という言葉があってね。みんなに不満があって、閉塞感に満ちている時って、「誰かこの現状を打破してくれないかなあ」と願う気持ちが社会全体に膨らんでいく。それよりも、一人一人が自分の暮らしを豊かにする知恵をつけ、身の回りの物を自分で作って豊かに楽しく生きていく。そうやって心を満たして喜びを分かち合う社会になっていきたいなあって思うよ。

——素敵ですね。自分自身そうなっていきたいし、子どもたちにもそういう大切な心を伝えていきたいですね。今日はありがとうございました。



◆WARM BIZ(ウォームビズ) 始めませんか? ~暖房時の室温が 20℃でも快適な暮らし方“WARMBIZ”

環境省では、冬、“寒いときには着る、過度に暖房機器に頼らない”という原点に立ち返り、暖房時の室温が 20℃でも快適なスタイル“WARM BIZ”(ウォームビズ)を呼びかけております。政府では、省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議において、「冬季の省エネルギー対策 について」を決定し、政府として率先した取組を自ら実施するために、暖房中の室温は 20℃ではなく、「19℃を目途に過度にならないように適切に調整に努める」こととし、地方公共団体にも同様の取組を行うよう協力を要請しています。

『暖房利用による CO2 を削減し、地球温暖化を防止しよう。』

ウォームビズは、暖房に必要なエネルギー使用量を削減することによって、CO2 の発生を削減し地球温暖化を防止することが目的です。最近の断熱性の高い建物では、暖房をしなくても室温が 20℃を超えるものもあります。こうした建物はその性能そのものが地球温暖化対策に貢献しているといえます。ウォームビズでは室温 20℃を呼びかけていますが、そのような建物について冷房してまで 20℃にすることを求めるものでももちろんありません。暖房をつけずに済むのであればそれが最も望ましく、ウォームビズはあくまで過剰な暖房を抑制する呼びかけです。

詳しくは <http://funtoshare.env.go.jp/warmbiz/>

◆ぶどうを利用した緑のカーテンセミナーを開催します！

山梨県では、夏場の冷房時に排出されるCO2を抑制し節電対策の取り組みとして、ゴーヤや朝顔などのつる性植物を使い、窓辺や壁面に緑のカーテン運動を推進しています。県の特産品であるぶどうを緑のカーテンとして利用することにより、「ブドウのある暮らし」を身近に感じ、山梨らしい文化として根付かせていくため、一般的に緑のカーテンとしてなじみが薄い「ぶどう」を利用したセミナーを開催いたします。来年の夏はぶどうを利用した緑のカーテンで夏の暑さをしのいでみませんか。多くの皆様のご参加をお待ちしております。 <連続講座です！>

日時： 第1回 平成29年2月16日(木) 13:30~15:30 / 平成29年2月21日(火) 13:30~15:30

第2回 平成29年3月 7日(火) 13:30~15:30 / 平成29年3月10日(金) 13:30~15:30

会場： 第1回 山梨県防災新館1F オープンスクエア東側(甲府市丸の内1-6-1 山梨県庁内 防災新館)

第2回 東山梨合同庁舎1F 101会議室(甲州市塩山上塩後1239-1)

定員： 60名 (先着順、事前申込制)

●お申込： メールにて sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp (森林環境総務課)

◆全国各地の地球温暖化による影響とその対策を伝える特設サイト ~「COOL CHOICE TV」開設迫る！

12月上旬、環境省は全国の地方テレビ局29局とタッグを組み、COOL CHOICE 公式サイト内に、特設サイト「COOL CHOICE TV」を開設します。特設サイトでは地球温暖化による影響で地域に迫りくる危機と、地域で進む温暖化対策を追った動画を見ることが出来ます。北海道・東北・中部・中四国・九州・沖縄の各エリアから、随時動画がアップされ、今年度中に約300本の動画を掲載する予定です。

<http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/tv/>12月上旬に開設される予定ですので、是非、ご確認ください。

発行：『山梨県地球温暖化防止活動推進センター』公益財団法人キープ協会

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545

TEL/0551-48-8011 FAX:0551-48-3577

Mail: eco@keep.or.jp URL:<http://www.keep.or.jp/yccca/>